



会 社 名 テクマトリックス株式会社

代表者名 代表取締役社長 由利 孝

(コード:3762、東証第一部)

問合せ先 執行役員管理本部長 森脇 喜生

(TEL. 03-5792-8601)

クロス・ヘッド株式会社が米 Pica8 社に出資

記

当社の連結子会社であるクロス・ヘッド株式会社(本社:東京都渋谷区 代表取締役社長: 長 正三、以下クロス・ヘッド)が、この度、米 Pica8 (ピカエイト)社(Pica8 Inc. 本社:カリフォルニア州パロアルトCEO: James Liao、以下 Pica8社)に出資をしましたので、添付の通りお知らせします。

クラウドコンピューティングの普及が加速する中、Pica8 社はサーバーやネットワークを効率的に管理するための仮想化技術に加え、これまで各ネットワーク機器メーカー独自の仕様であったネットワークスイッチを、市場に出回る汎用品だけで実現したハードウエアに、Pica8 社の開発したソフトウエア等と組み合わせ提供することで、ネットワーク機器のコストやネットワーク管理者の負担を大幅に削減しています。

クロス・ヘッドの子会社でPica8 社の国内総販売代理店のエヌ・シー・エル・コミュニケーション株式会社は 平成24年10月にPica8 社に資本参加しています。

Pica8 社の戦略が、単なるネットワーク機器の販売から、ソフトウエア技術による次世代ネットワークの構築へと展開するのに伴い、より多くのネットワーク・システム・エンジニアを抱えるクロス・ヘッドが、顧客向けの次世代ネットワークのコンサルティング、設計、構築、運用等のネットワーク・インテグレーション事業を拡大する目的でPica8 社への出資を実施しました。

以上

クロス・ヘッド、米 Pica8 社に出資

データセンターネットワークの革新に向けてソリューション分野で提携関係を強化

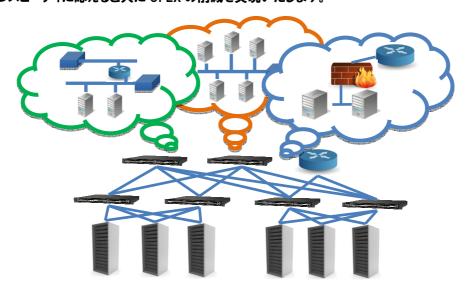
クロス・ヘッド株式会社(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長 長 正三、以下、クロス・ヘッド)は PVP Venture Capital Partners、VantagePoint Capital Partners、等と共に、オープンネットワーク時代のスイッチ OS と SDN によってデータセンターネットワークの革新を推進する米 Pica8(ピカエイト)社(Pica8 Inc. 本社:カリフォルニア州)に出資したことを発表いたします。

このたびのシリーズ B での Pica8 Inc. の増資総額は\$12.5M で、前回のシリーズ A と合わせて\$20M を超える 増資となりました。

前回 2012 年 10 月のシリーズ A の増資においては、クロス・ヘッドの子会社であるエヌ・シー・エル・コミュニケーション株式会社(以下、NCLC)が、Pica8 社に出資しております。現在、NCLC は Pica8 社の国内総代理店としてホワイトボックス・スイッチやネットワーク・ソフトウェアのディストリビューション事業における戦略的パートナーであります。この度、NCLC の親会社であるクロス・ヘッドから Pica8 への出資は、多くのネットワーク SE を有しネットワークインテグレーション事業を推進するクロス・ヘッドと Pica8 が次世代のデータセンターネットワークの SDN ソリューション分野で戦略的提携を推進するという目的のもとに実施されました。

近年、クラウドコンピューティングの一層の普及によりデータセンターネットワークには様々な革新が求められております。

ひとつは迅速で柔軟なクラウドサービスを実現するために、サーバやネットワークといった物理リソースを効果的にかつ柔軟にマネジメントするための仮想化ソリューションです。VXLAN 等のオーバーレイ技術や OpenFlow 等によって物理ネットワークを仮想化すると共に、OpenStack 等のクラウドマネージャーと連携しながらデータセンター全体の仮想環境の一元的管理を実現します。仮想化されたデータセンターは、クラウドサービス等のビジネスニーズに、柔軟にかつスピーディに応えると共に OPEX の削減を実現いたします。



ふたつめは物理ネットワークにおけるトラフィックの変化への対応です。これまではインターネットを介しユーザー側とデータセンター側、いわゆる南北間のトラフィックがデータセンター通信の主流でした。しかしクラウドコンピューティングの進展に伴い、データセンター内のいわゆる東西間の通信の流れがいまや全体の80%近くに及んでおり、この新たなトラフィックに最適な柔軟でスケーラブルなネットワークトポロジーへの転換を求められております。この新たなトポロジーは Clos ネットワークと呼ばれ標準的なネットワークスイッチを Leaf-Spine 構成で多重化することでスケーラブルな IP ファブリックにとして効果的な通信を実現いたします。OSPFやBGPとECMPの組合せによる構成、あるいは、VXLANによる構成など Pica8 社は Clos ネットワークの構築において豊富な実績を持っております。



旧来の垂直トラフィック重視のネットワーク構成と、水平トラフィック重視のネットワーク構成

最後は、これまでメーカー独自のハードウェアボックスであったネットワークスイッチの、標準的なホワイトボックス化です。安価で高性能な商用スイッチチップを搭載したホワイトボックス・スイッチ(ベアメタルスイッチ)と優れたネットワークOSの組合せは、データセンターにおけるCAPEXを劇的に削減することを実現すると共に、メーカー独自のシャーシタイプではない、標準的なハードウェアによるネットワークはユーザーをベンダーロックインから解放することも実現します。

Pica8 の自社ブランドスイッチは、ODM 製のホワイトボックス・スイッチに、データセンター向けに最適化された L2L3 プロトコルと最新の OpenFlow1.4 を同時に搭載・サポートしているスイッチです。世界中のデータセンターに 既に数多くの導入実績をもっております。また、10 月からは ONIE 対応のサードパーティ製のベアメタルスイッチと Pica8 製ソフトウェア(PicOS)の組合せで更なる CAPEX の削減を実現することを可能にします。

> レイヤー3 ライセンス OSPF/ECMP ・ BGP/ECMP PIM・ NAT等

OpenFlow ライセンス OVSDB,OpenFLow1.3 OpenFlow 1.4 MPLS, CrossFlow VXLAN等

基本ライセンス レイヤー2パッケージ (1GEもしくは10GEを選択)

● PicOS2.4のライセンス体系

以上のようにデータセンターネットワークには大きな変化が訪れております。

クロス・ヘッドは SDN のリーディングカンパニーである Pica8 と共に、次世代データセンターネットワーク実現に向け

たコンサルティング・設計・開発・構築・運用といったトータルなソリューションを提供して参ります。

■ クロス・ヘッド株式会社について

http://www.crosshead.co.jp/

クロス・ヘッドはネットワークおよびサーバ基盤に関する設計/構築サービスと、IT 教育を中心とした人材育成を主事業として掲げ、1992 年に創業しました。以後、ネットワークインフラ周辺に特化した事業展開を継続し、現在では技術者常駐派遣・ハウジング・リモート監視・ディザスタリカバリ・運用コンサルティング・保守サービス、電気工事事業などに業容を拡大し、お客様の情報システム基盤における技術課題に対してワンストップで最適なソリューションを提供しています。

◇お問い合わせ先

クロス・ヘッド株式会社

〒150-6027 東京都渋谷区恵比寿 4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー27F ソリューション事業部/マーケティング・広報

TEL:03-5793-3376 E-mail: ch-solution@crosshead.co.ip

■ エヌ・シー・エル コミュニケーション株式会社について

http://www.nclc.co.jp/

エヌ・シー・エル・コミュニケーション(略称 NCLC)は、海外のネットワーク、ストレージ、セキュリティ製品を取り扱うディストリビュータです。 Pica8 社の国内総代理店として、これまで国内累計 1400 台(2014 年 9 月末現在)を超える SDN スイッチの販売実績を持っております。 またオープンな SDN ソリューションの普及を目指し、日本国内の SDN システムの構築において豊富なサポートサービスの実績を持ちます。

◇お問い合わせ先

エヌ・シー・エル コミュニケーション株式会社について

〒150-6027 東京都渋谷区恵比寿 4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー27F 基盤ソリューション事業部 営業部

■ Pica8 Inc. について

http://www.pica8.com/

Pica8 は 2009 年の設立以来、オープンネットワーク時代のスイッチ OS(PicOS™)を安価で高性能な商用スイッチボックスに搭載し、データセンターに革新をもたらしてきました。PicOS™ は従来のネットワークプロトコルのみならず、最新の SDN ソリューションを提供する高性能なスイッチ OS として、お客様の既存ネットワークを最新の SDN へと移行する柔軟なマイグレーションパスを提供しています。Pica8 はこれまで高価で閉鎖的であったネットワーク市場を、より自由でカスタマーベネフィットに優れた市場へと変えていくことを目指しています。

記載されているロゴ、会社名、製品・サービス名は、各社の登録商標または商標です。